

食で満たされる1ヶ月でした。年末年始は行事盛りだくさんです。



ボク高校卒業まで愛育園にいられるの

園長 藤本光世

月に一度ほど、児相のケースワーカーさんが愛育園の子どもたちに面接に来ます。子どもたちの様子を知るためです。別室で、ケースワーカーさんと子どもが対面で面談します。原則として職員は入りません。

10年ほど前は、児童養護施設で施設内虐待が起きていないかを調べるためでした。職員の前で子どもに「先生に叩かれていない？」と聞いていたと憤慨した報告を聞きました。ケースワーカーさんは当園の職員の子育てを信頼していなかったし、逆に当園の職員もケースワーカーさんや児相を信頼していませんでした。児相と養護施設が「手を携えて」子どもを育てましようと言われても、それは空虚に聞こえました。子どもたちにとって不幸なことでした。

それが今は180度変わりました。ケースワーカーさんが当園の養育を信頼してくれていることがさまざまな機会に伝わってくるようになりました。それはとっても嬉しいことです。「この子は円福寺愛育園でなければ」と言ってくれます。ある子は、1年半もかけて職員が何度も面接し、何度も愛育園を見学し、最後は3時間も面接して、それでも愛育園へと入所につながりました。その子の意思を確かめ、尊重しての結果です。その過程で、子どもも変わったと思います。

その背景には、愛育園だったらこんな難しい子ども、きっと手をかけてよく育ててくれるだろうという期待があることを知りました。ある面談で「子どもを施設に入所させて失敗するのを見るのは避けたい」とケースワーカーさんが言ったのです。ケースワーカーさんも子どもが施設で立派に育つことを期待しており、それに愛育園が応えていることが分かりました。何度も書いているように、当園に入所した子どもたちは、顔つきまで変わります。穏やかに、子どもらしく、明るくなるのです。職員に甘えることができるようになるのです。その姿を見て、私は本当にうれしく幸せな気持ちになります。

表題の言葉は、小学校1年生がケースワーカーさんに話した言葉です。この子は、入所して3か月ほどしかたっていない。ケースワーカーさんはこの子が入所する前の様子を知っています。短期間のあまりの良い変化に驚いているのです。そして、上の言葉にさらに驚かされたのです。当園の職員もびっくりしていました。上の言葉に続いて「大学へ行ったら出なければならぬんだよね」

(令和2年12月10日発行 月刊「円福」483号付録)

とも言ったのです。小学校1年生のこの子が大学へ行くことまで考えている。この子を知っている職員は、それにも驚いたのです。そして、感動しました。子どもってすごいなあと思改めて思ったのです。

この子は、愛育園に来てとっても子どもらしくなりました。目つきも顔つきも変わりました。甘えたい思いをいろいろな行動で出してくれます。微笑ましいです。先生が困ったように報告してくれます。その裏に、この子はあなた（先生）が大好きなんだよと話してあげます。そうです、当園の先生が大好きなのです。大好きな先生ばかりなのです。

創立70周年の記念誌に、当園の初代園長藤本幸邦が、愛育園は「教育的」施設でなければならぬと書いていることを紹介しました。この「教育」とは何でしょうか。私は「教育」とは「心を育てること」と考えます。知識の受け売りではないのです。知識を覚え込ませることではないのです。

宮城教育大学の元学長で全国の小学校で『人間について』や『開国』の授業をされた林竹二先生は、「教えるということ」（国土新書）の中で「学ぶということ」について次のように書かれています。（105p）

『学ぶということは、覚え込むこととは全く違ったことだ。学ぶとは、いつでも、何かが始まることで、終わることのない過程に一步ふみこむことである。一片の知識が学習の成果であるならば、それは何も学ばないでしまったことではないのか。学んだことの証はただ一つで、何かが変わることである。』

子どもたちは、愛育園で生活して（「教育」で）何かが変わったのです。それが、甘えや顔つきに表れ、表題の言葉になったのだと思いました。この子は愛育園の「教育」で何かを学んだのです。そして何かが変わったのです。そして終わることのない過程に一步踏み込んだと思いました。

運命を受容して生きる

菅谷松本大学学長先生の誌上のご講演を圓福12月号に掲載いたしました。

愛育園の子どもたちと一緒に過ごして、この子たちにとって「運命を受容して生きる」とは、どのようなことなのだろうかと、時間があると考えてしまいます。

職員に「憐れみ」の心を話しました。「憐れみ」とは、自分は安全な場所に置いて上から哀れ（かわいそう）に思うことでは、決してありません。仏教の言葉で言えば「慈悲」、言葉を変えていけば「おもしろい」です。子どものところまで下がって行って、子どもと悲しみを共有し、その上で子どもを指導してほしいのです。子どものさまざまな具体的な行動を「憐れみ」「慈悲」「おもしろい」の心をもって、子どもの心（背景）に共感して理解し、その上で指導しなければ、子どもの心に響く指導にはなりません。その上に、子どもと人間関係ができていないと、子どもは心を開いて本当の気持ちを話してくれないでしょう。

職員は子どもとたくさん話ができるようになりました。毎日の「ふりかえり」です。子どもから「話をしたい」と来ることがあります。それらが引継ぎで報告されます。ホーム長が話してくれます。子どもとの話は、基本的に「傾聴」です。たくさん「傾聴」して、それを踏まえた指導です。「傾聴」とはなんと難しいのでしょうか。下手に「傾聴」すると子どもに振り回されます。引きずり込まれます。下に見られます。ある時は、子どもの暴言に傷つきます。時間もかかります。エネルギーが要ります。だから、児童養護施設の仕事は職員によって「できる」と「できない」があるのです。私はこの仕事に就いたころは、このことが分かりませんでした。

子どもと話すのは夜です。夜はそれぞれのホームが複数勤務です。きっと、一人の職員に全体を見ることを頼んで、対話室や医務室で、一対一で子どもと話すのでしょう。子どもたちは11時には就寝するのですが、対話をして12時近くになってしまったと報告があります。職員の努力に頭が下がります。皆さんありがとう。

昼食バイキング



栄養士兼調理員 原未華

11月23日に昼食バイキングがありました。去年はパンバイキングをしたので、今年はどんな料理を子ども達に提供できるか、喜んでもらえるかを考え、計画しました。

ホーム長お二人に子ども達が喜ぶメニューを提案していただき、決まったメニューがしゅうまい、餃子、ミニ

ハンバーグ、春巻き、クリスピーポテト、フライドチキン、カレーライス、お茶漬け、サラダ（レタス、きゅうり、ミニトマト）、タラモサラダ、フルーツinゼリー（ぶどう味、オレンジ味）、スイートポテトです。

ホーム長お二人にも相談にのっていただき、前日準備や仕込み、当日やることなど、調理全員で手分けして協力し作業しました。

当日はライブダイニングをホーム長お二人が目玉焼きとオムレツを子ども達に作ってくれて、ホテルのバイキングのような雰囲気でした。子ども達も自分の好きな物だけ多くとったりせず、ルールを守ってバイキングを楽しんでくれました。

反省すべき点はいくつもありますが、先生方にたくさん協力していただいたことに感謝しています。私の至らないところが多く、たくさんご迷惑かけてしまいましたが、反省点や改善点をこれからの業務に生かしていきたいと思います。

本格的に寒くなってきますが、寒さにもコロナにも負けない子ども達の食育を全力でサポートしていきたいです。

昼食バイキング



あおぞらホーム 畔上裕吾

11月23日に食堂にて調理の先生方による昼食バイキングが催されました。園内での昼食バイキングは子どもたちにとって楽しみの一つになっており、バイキング前日から子どもたちは「明日のバイキング楽しみ。」といった声や「どんなメニューが出るんだろう。」などとても楽しみにしている様子が伺えました。

昼食バイキング当日、食堂に入ってまず驚かされたのはバイキングメニューの種類の豊富さです。カレーライスやフライドチキン、餃子や春巻き、デザートにはフルーツゼリー、スイートポテトなど10種類近くのメニューがありました。食堂の雰囲気も飾り付けがされ、普段とは違った特別感のあるものとなっていました。また、実際にホテルのバイキングにもあるライブキッチンの特設コーナーがあり、目玉焼きとオムレツが目の前で振舞われました。出来立ての目玉焼き、オムレツはとても人気があり、おかわりをする子どもたちが多かったです。昼食バイキング全体を通して、何度もおかわりをする子どもたちが多く、「あれが美味しかった。」「これも美味しかったよ。」など、子どもたちの会話からもとても楽しく美味しい昼食バイキングとなったのではないかと思います。

昼食バイキングの企画から沢山のメニューを準備して下さった調理の先生方ありがとうございました。

昼食バイキング 児童感想 あおぞら

きょうは、ちょうりのせんせいたちでかんがえた、バイキングをしました。ごはんはさいしょ、カレーライスをたべました。つぎに、ポテトをたべました。つぎにはじめてたべたフライドチキンもたべました。つぎにギョウザをたべました。つぎにしゅうまいをたべました。つぎにゼリーをたべました。つぎに、とみざわせんせいといしざきせんせいのたいけつがありました。どっちがかったかは、わかりませんが、どっちもおいしかったです。

(小1・Y君)

11月23日に愛育園でのバイキングがありました。いろいろな食べ物があってポテトとチキンとはるまきとハンバーグとしゅうまいとぎょうざとサラダがあって、おいしかったです。特におもしろかったのが、石崎先生と富澤先生のしょうぶで、おいしそうに作っていました。またあったらうれ



しいです。

(小6・R君)

バイキングがありました。たくさんのおいしい料理があって、たくさん食べました。1番おいしかったのは、オムレツで2番目においしかったのはポテトでした。でも、全部同じくらいおいしかったです。けっこう余って、その後もお茶漬けなど食べました。デザートでゼリーやスイートポテトもおいしかったです。おどろいたのは、スイートポテトのふちが紫色になっていたことです。どうやって色付けしたのか分からなくて、さつまいもの皮かなーと思いました。余りが夜ご飯でたくさん出てきて、全部食べることができました。

昼食バイキング 児童感想 まごころ



11月23日に昼食バイキングがありました。カレーやお茶漬け、ぎょうざ、スイートポテトなど、おいしい食べ物がたくさんありました。私が一番おいしかった食べ物は、ぎょうざです。肉汁がいっぱいできてとてもおいしかったです。デザートでは、スイートポテトはいつもと少しちがくておいしかったです。また、みんなと楽しくバイキングをしたいです。

(小6・Tさん)

11月23日は昼食バイキングでした。バイキングには、たくさんの料理がありました。例えば、タラモサラダや春巻き、ぎょうざやポテトなどがありました。その中で一番おいしかったのは、春巻きとポテトです。ポテトはカリカリとしていてとてもおいしかったです。春巻きは、外側はカリッとしていて、中は春雨がはっていておいしかったです。

そして、バイキングの最中、石崎先生と富沢先生が料理対決



をしていました。石崎先生はオムレツを作り、富沢先生は目玉焼きを作っていました。私は両方とも食べましたが、二つともおいしかったです。オムレツにはチーズをいれて、目玉焼きにはチーズトッピングをして、ケチャップをかけて食べました。おいしかったです。また、バイキングをしたいです。

(中1・Mさん)



11月23日に、調理の先生たちが、昼食バイキングをしてくれました。わたしは、どれもおいしかったと思うけど、特に、『煮込みハンバーグ』がとてもおいしかったと思います。

今月は、大きな行事がなかったけど、調理の先生が考えてくれたおかげで、とても楽しい行事になりました。

(中2・Sさん)

さんま・おでん大会

あおぞらホーム 石龍成己



11月29日(日)、ホーム食としてさんま・おでん大会を行いました。あおぞらホームでは、火おこしと、さんまを焼く作業をしました。5台のコンロを使い、火をおこしました。部活の子もいて中高生は少し人手が少なかったのですが、高校生のN君やK君が率先して動いてくれました。初めて火おこしする子もいて、ちゃんと火が保てるか心配な様子もありましたが、他の子たちは、年に2

回以上は火おこしをしているベテランということもあり、火が弱くても焦ることなく、さんまを焼き始める11時半に、強く火が燃えるようにおこすことができました。さんまを焼き始めると、中1のS君がとても良く動いてくれました。さんまを調理から持って来てくれたり、持って行ってくれたりしました。すると、弟のT君も兄の様子をみて、動いている様子ありました。また、頂き物の牛タンも焼きました。去年は調理の先生に焼いてもらい頂きましたが、今回は焼き加減が難しく、少し硬めに仕上がってしまいましたが、自分たちが焼いたという事もあり、みんなおいしく食べてくれている様子でした。また、あおぞらの子たちがさんまの準備をしている間、まごころホームと調理でおでんとおにぎり、ロールキャベツの準備もしてくれました。おでんは種類豊富に取り揃えてくれ、おにぎりは、さんまや牛タンの味に丁度良く、薄めの塩味を用意してくれました。皆で一生懸命に作ってくれたんだとわかる、手作り感のあるおにぎりでした。また、午後にはまごころホームで焼き芋を作ってくれ、おやつ時間に焼き立てを頂きました。

11月はなかなか全体での行事が少ない月ではありましたが、食で心が満たされる、1ヶ月でした。



さんま・おでん大会



まごころホーム 田中沙季

11月も終わりに近づき日に日に寒さが増しています。そんな中11/29にさんま・おでん大会が行われました。子ども達もとても楽しみにしている行事の一つです。準備の段階からみんな積極的に動いてくれました。あおぞらホームの男の子たちは火をおこしてさんまを焼き、まごころホームの女の子たちはおでんの準備をしました。おでんも様々な具材があり、それらの下準備もグループごとに分かれて行いました。私はロールキャベツを作りました。同じグループの子ども達は積極的に調理道具の準備をしたり、作り始めてからはどの作業も一生懸命やってくれました。特に高校生のAさんは日頃愛育園の高校生たちのお弁当を作っているという事もあり、他の中学生にアドバイスしたりテキパキと動いてくれました。そんな子ども達のおかげで作業はスムーズに進み無事にロールキャベツを作ることが出来ました。

大鍋でおでんがならび他にもおにぎり、さんまもお皿にならび、子ども達はとても嬉しそうな顔でした。何度もおかわりしてたくさん食べていました。今回の行事で子ども達も料理の楽しさや誰かに食べてもらえる嬉しさを感じたと思います。

大鍋でおでんがならび他にもおにぎり、さんまもお皿にならび、子ども達はとても嬉しそうな顔でした。何度もおかわりしてたくさん食べていました。今回の行事で子ども達も料理の楽しさや誰かに食べてもらえる嬉しさを感じたと思います。

少年少女野球大会



まごころホーム 橋本雅

11月は8日ウィンズ杯、28日西寺尾ライオンズ杯に出場しました。

ウィンズ杯ではAT少年野球クラブと対戦しました。初めは声も出てとても頑張っていました。打たれたりエラーがあると声が無くなってしまっていたのですが、こんな時こそチームで声を出そうと6年生に声掛けると必死になって声を出しチームを支えてくれました。みんなで繋いで2点取ることができました。結果8-2で負けてしまいましたがチーム一丸となって戦うことができました。

今年最後の大会、西寺尾ライオンズ杯ではオール豊栄と対戦しました。いつも以上に気合が入り、アップの声からとても大きく良い雰囲気です。試合に望むことができました。試合では、1人1人が役割をこなし頑張っていました。ベンチの人もバット引き、ボール拾いなど率先して動いてくれました。結果10-4で負けてしまいましたが、今までの試合の中で一番いい試合でした。

(令和2年12月10日発行 月刊「円福」483号付録)

少年少女野球の大会は11月で最後でしたが、みんなで一丸となって戦うことが出来るととてもいい試合でした。技術面はとても上達し一生懸命取な姿や挨拶道具の準備片付けなど率先して取り組む姿がありすごく成長したなと感じました。今年の大会は終わってしまいましたが、来年に向けて、選手と共に練習に励んでいきたいと思えます。

七五三お祝い

まごころホーム 加藤ゆかり

今年は、5歳のお祝いをする男の子が2名、7歳のお祝いをする女の子が1名おり、11月14日に武水別神社(八幡神社)に参拝に行きました。ここまで健康に過ごすことが出来た感謝と、これからも元気に過ごせまうように、とみんなでお参りしました。



7歳のRちゃんは、着物を着られることを前日からとても楽しみにしていました。当日は、調理の松本先生に着付けて頂きました。赤い着物がとても似合っており、職員や児童に「かわいいね、おめでとう」と声を掛けてもらい、恥ずかしそうにしていたのですが、嬉しそうにニコニコしていました。5歳のKくんとHくんも洋服に着替えるまでは元気に遊んでいましたが、着替えた途端、お兄さんらしく背筋がピンと伸びていました。3人ともいつもと違う服装で特別な日ということを実感したようです。

みんなそれぞれ小学校や幼稚園で毎日頑張っています。成長のスピードはみんな違いますが、これからも大きく成長していけるよう、近くでサポートしていきたいな、と思えます。

令和二年度 円福寺愛育園総合避難訓練

あおぞらホーム 倉島誠



11月21日に今年度の園内総合避難訓練を行いました。今回は、避難訓練、初期消火訓練、水害学習の3点を中心に行いました。篠ノ井消防署の署員さん3名をお招きして、実際に火事があった場合の消火器の使い方、水害があった場合の土嚢の積み上げ方、簡易的な土嚢の作り方等を教わりました。消火器も赤いコーンを火と仮定して、子ども達も「火事だー！」

と大きい声を出して、上手に消火器を使いこなせることができました。昨年度の台風19号の経験



から水害に備えた土嚢の準備、子ども達だけでも出来る土嚢の作り方等も、いざという時の困らないよう、色々な知識も知ることができました。子ども達も率先してお手伝いをしてくれ、消防署員さんも「よく動ける子ども達ですね」と感心されていました。消防署員さんのお話で、「大切なのは自分勝手な事をしないこと、チームワークが人の命を救うことに繋がる」というお話がありました。いつ起きる

か分からない災害に「備えておく」という事の必要性を知る良い機会になりました。

学習の様子

まごころホーム 竹内早季

11月は中高生の期末テスト期間でした。元々日課として19:30から談話室に集まって中高生全員が学習する時間が設けられていますが、テスト前はそれぞれ自分の目標点数に向かって学習計画を立て、そのために全体日課以外のところでも積極的に学習に励む子どもたちがたくさんいました。

「先生もう勉強していい？」と自分から聞いてくる子もいます。期末テストは範囲も広く、段々と難しくなってくる内容に四苦八苦していましたが、分からないときは「教えてください」と聞きながら粘り強く取り組んでいました。結果が返ってきて前回より点数が上がって喜ぶ姿や、逆に下がって悔しそうにする姿など頑張った分一喜一憂しているところが印象的でした。ただ、一番すごいと思ったのは、テスト前だから勉強するのではなく、普段から日課を守り、こつこつと努力しているところです。また、小学生たちも集中して学習に取り組める子が増えてきました。1年生のY君は宿題が終わった後、「先生、漢字のテストして！」と言い、問題を出してあげると得意げになって書いています。小学校入学当初、ひらがなも読めなかったY君は今やすらすらと漢字を書いています。そういった姿に本当に成長を感じ、嬉しくなります。そういった子どもたちの頑張りを励まして、サポートしていきたいです。

あおぞらホームだより



あおぞらホーム 金井雄大
朝晩はとても冷え、園の子ども達もとても寒そうにする日が増えました。11月は園内外で、様々な行事がありました。園内では、昼食バイキングやさんまおでん大会がありました。食欲の秋と言う事で、旬の食材を味わうことが出来ました。子ども達は、すごく沢山の量を食べていて、お腹パンパンに張れている子が何人もいました。食べ過ぎて苦しそうな子もいましたが、食べ過ぎて苦しいなんて幸せな悩

みだなと思いました。また、さんまおでん大会では、中高生が率先して火おこしを手伝い、とても頼りになりました。園外では、野球の大会や、練習試合があり、朝早くから起きて準備をし、試合ではそれぞれが声を出して頑張っていました。大会は今年度最後の公式戦で、負けてしまいましたが、また練習を重ねて強くなっていてもらえたらと思います。

まごころホームだより

まごころホーム 中村茉莉歌

11月も終わり段々と寒い日が多くなってきました。風が強い日もある中で、子ども達は天気がいい休日に「外で遊びたい！」という姿があります。外で自転車をしたり、シャボン玉、鬼ごっこ、バッティングなど各々好きな遊びを楽しんでいます。先月の園内行事ではサンマ&おでん大会がありました。小中高生は積極的にお手伝いをしていました。女の子たちはおにぎりを一つ一つ握ってくれました。いざ、サンマを食べようとなった時に大骨の取り方で苦戦する子、キレイに取れたことを教えてくれる子、大骨や頭まで全部きれいに食べている子もいました。



調理室だより

身を苦くて食べられないとたくさん残している子もいましたが、頭が良くなるよと言われるとすぐに食べるという姿も見られました。寒くなってきた子ども達の活発さも少なくなってしまうのかな？と心配もありましたが、そんなこともなく毎日元気に過ごせています。子ども達、職員全員が手洗いうがいをして、風邪をひかないようにして毎日笑顔で過ごせると良いです。

調理員 川澄保美

暦の上では、秋から冬に移ろうとしていますが、暖かくて半袖でも良い日があったり。冷たい風で、コートが必要だったり体調管理が難しいですが子供達は毎日元気一杯で力強さを感じます。

《11月の誕生日メニュー》

- 11日 H君 ソバ・天ぷら
コールスローサラダ・チョコレートケーキ
- 21日 T君 お赤飯・鶏の唐揚げ
サケチーサラダ・サイダーゼリー
- 28日 M君 シーフードクリームスパゲティ
鶏ささみのサラダ・抹茶ケーキ



《特別メニュー》

- 14日 七五三祝いメニュー
三人の子供達が、お祝いいただきました。
お赤飯・エビフライ・ホウレン草のゴマ和え・のつけ豆腐・ババロア
- 23日 昼食バイキング (心こめてつくりました)
- 29日 さんま・おでん大会

厳しい冬に向って、ストーブの入った暖かい食堂で心と体を満たす食事づくりを心掛けて行きたいと思います。

